

ろりとした感じで、口に含むとコクのある重厚な味わい。洋酒なら貫禄のあるブランデーといったところでしょうか。

グルメを気取って美味しいお店を食べ歩くのもいいでしょうが、本物の味は家でじっくり味わいたいものです。とにかく、蔵元曰く「口に入れるものは手をつくらぬとね……」。これ、基本です!!。 —彩子

シリーズ 隠れた建築紹介～五輪会場・隠れない建築?～

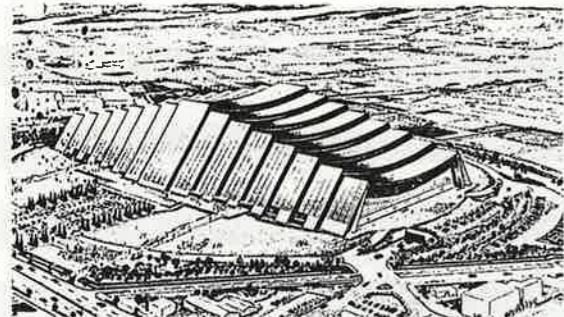
長野冬季五輪に向けて、競技施設は着々と工事が進んでいる。会う人みんなに「いつ来ても何か見れておもしろい」と言っていることもあって、東京から客人が来たり、見学会があったりと、結構見学させてもらっている。

これまで見た中でおもしろかったのは、ボブスレー・リュージュ施設とジャンプ施設。ボブスレー・リュージュはほとんど東京ディズニーランドのスペースマウンテンのりだし、ジャンプ施設を見たときは、宇宙服を着た奴が空飛んでくし、なんか長野の環境が変わったぞと思わせた。

おちゃらけはさておき、木質構造を専門としているということもあって、スピードスケート会場にはまじめに注目している。「世界に例のない大スパン木造吊屋根構法」とはパンフレットの見出しであるが、建物の中でスピードスケート用の400mトラックが取れるのだから（私もはじめて知ったのだが陸上競技用の400mと曲率が違ってちょっと小さい）、216m×80mと確かに大きい。構造的には鉄筋コンクリートの下部構造にポストとステイと呼ばれる鉄骨部材が2組あり、その間の80mを掛け渡すのが木造吊屋根という造り。現在（11月24日）、その吊屋根のリフトアップが始まり構造的には見頃といったところ。吊屋根がかかる前はだっ広い敷地にRCの下部構造があってダムができるのではないかと思わせたが、屋根が掛かると今度は吊り橋が掛かったと思わせた。確かに出来上がりは壮観だろう。

でまた閑話。後利用は各種スポーツ、コンサート、イベントなどの多目的利用ということだけど、なんか他にもそんな施設が近くにもあるような気がするぞ。バスケットボール、バレーボールレベルのスポーツも、移動客席で簡単にできるということだけど、使わないところの方が大きくて、これでいいのって感じ。帰りの車の中で、サッカー好きの学生はJリーグのチームを作って、ここを本拠地にしよう、アメフト部の学生はNFLに来てもらおうと言っていたが、満更ばかにするような話でもなく、ほんとにそうしようよ。

—広報部会・五十田 博



「イサム・ノグチ+ルイス・カーン展=刻み込まれたランドスケープ=」を終えて



世界的に著名な造形家イサム・ノグチのランドスケープ作品の展示会が金沢工業大学の主催で、同大学ライブラリーセンター展示室で11月1日から同月23日まで開かれ、県内外から多くの鑑賞者が詰めかけた。

展示会では建築家ルイス・カーンとの共同プロジェクトであるニューヨークのリバーサイドパークのランドスケープ計画（実現せず）のブロンズ模型と図面、大谷幸夫先生と共同制作した「横浜こどもの国」における児童遊園の石膏模型などが展示された。またこの展示会を記念して、大谷先生と前田忠京都大学講師をお迎えして講演会も11月3日に金沢工業大学で開催され、参加者は150人をゆうに超えた。

講演会では大谷先生はイサム・ノグチと共同制作した立場からお話しされ、ランドスケープに対する設計姿勢はノグチ氏の影響を受けたと語られ、なかでも興味深い示唆は「デザインとは自然が内包している秩序を引き出し、それらを純化し形象化して現わすことである」と述べられたことであった。

続いて講演した前田先生はカーン研究の立場から、はじめにノグチとの共同プロジェクトの作品の変容プロセスについての解説がなされ、次にカーンの作品分析をスライドを交えながら解かりやすく説明された。

最後にこの展示会は、日本建築学会北陸支部の後援を得て開催されたものです。多大なる支援を戴いたことを感謝致します。 —金沢工業大学建築学科・中森 勉

支部長あいさつ



新しい北陸支部長の川瀬清孝（54歳）です。新潟大学で建築材料に関する研究を行っています。コンクリート工学が専門です。

今まで10年間、新潟支所長を務めておりましたが、これから2年間北陸支部のために微力を尽くしたいと思っておりますので、よろしくご協力をお願い致します。

会員だけでなく、広く支部の建築関係の皆様方と交流できる場をつくれる本誌の役割には、大いに期待しております。

—支部長・川瀬清孝

日本建築学会北陸支部ニュース「AH./」第6号

発行日 1996年1月15日

発行 日本建築学会北陸支部広報部会

木原 隆明（新潟） 尾久 彩子（富山）

河内 浩志（石川） 増田 達男（石川）

桜井 康宏（福井） 五十田 博（長野）

事務局 室田 文男・瀬口さゆり

〒920 金沢市玉川町5-15

TEL 0762-20-5566 FAX 0762-60-1502



特集

金沢のまちづくり



支部ニュース「AH./」の第6号をお届けいたします。好評をいただいた特集「女性と建築」に代わる新シリーズでは、メインテーマとして「北陸らしさ」を取り上げ、各支所ごとに独自の「らしさ」に切り込んでいただくことといたしました。初回の今号では、「金沢のまちづくり」をテーマに地元ならではのホットな話題を提供しております。

一方、前号でご案内のとおり、賛助会員の増加などによる財政事情の好転により、これまでの広告欄を廃止して賛助会員のご紹介や広報部会企画のコラム欄として活用していく方針ですが、今号では、一つの試みとして学生諸君の「主張（内容・方法ともに自由）」を表現いただきました。限られたスペースにもかかわらず、中味の濃い主張が寄せられており、これも一つのシリーズとして定着させたいと考えております。

金沢のまちづくり

広報：「北陸らしさ」という新しいシリーズの最初の座談会として、今日は、「歴史性を生かしたまちづくり」というテーマで話をすすめたいと思います。それでは、順に自己紹介を兼ねて、日頃考えておられることをご紹介しますでしょうか。

堀内：金沢市のまちなみ対策課におります。「こまちなみ保存条例」ができて地区指定を進めていますが、生きた町として再生・活性化していくことが一番大切なんだなあと感じております。

竹田：金沢大学土木建設工学科におります。「道路」ではなく「みち」としての地区交通と景観関連の研究をしております。人それぞれ価値観が異なりますから、住民参加を通してうまくまとめていく時に非常に良い環境になっていくのではないかと考えております。

安江：コンサルタントに勤務しております。交通計画からみたまちづくりとして、例えば駐車場、新交通、高齢者・障害者のモビリティ、交通マネージメント等に携わっています。金沢も、伝統や文化にあぐらをかいているだけでなく、「どういうまちづくりをしたいんだ」ということを共通目標として持っていくところが一番ポイントだと思っています。

田島：私は金沢で金箔屋を営んでおります。郊外にかなりお店ができて廃れてきています。そこで今度、金沢駅前から我が武蔵ヶ辻商店街まで36m道路が通るといので、これが最後の武蔵浮上の機会だろうと商店会に呼びかけました。県からも補助を得て、イベントなりモデル店舗の改装なりを進めている最中です。

都心居住に向けて

安江：堀内さんに質問したいのですが、昭和30年代とか40年代に暖昧な建物が並んで、コミュニティはしっかりしているけれども中途半端な地区というのは、これから問題になるのではないのでしょうか。

堀内：「こまちなみ」は手当をしていくというよりも、そこにある景観をうまく利用して回転させていこうというわけで、30年代あたりの粗悪な建物については「こまちなみ」では難しいと思います。むしろ「地区



計画」などが取り入れていけるかどうか……。

竹田：「こまちなみ」は藩政期とか明治期とかの古い建物が主体になっており、実際はそれ以外のものが大部分を占めると思うんですよ。

安江：都心居住というか、皆さんやはり便利なところに住みたいと思っているのですが、宅地が狭いし道路も問題があるということで郊外に住むと思うのです。空き地になっている駐車場などを少しづつ寄せながら低層の集合住宅にするとか、そういう形で都心居住を取り戻していくことが、中心商店街にも影響していくと思うのですが……。

田島：お年寄りには良くない環境でも動きませんよね。近江町市場もありますし。

安江：すべての世代が住む、世代替わりをしていけるような都市づくりの手法もあるんじゃないでしょうか。

竹田：道筋整備事業では、歩ける道路のネットワークが一つの価値観を生んで、まちの活性化にもつながっていくと期待しているんです。

堀内：確かに駐車できないし敷地も狭いけれども、便利だしコミュニティも元々あるわけだし、そういうプラス面を伸ばすこと、安心して歩けるってことがまず大事ですね。神戸の真野地区で10年間コーポラティブやってきて、それが今度の震災復興の合意形成に非常に役立っているそうです。

スタジオ通りのまちづくり

広報：田島さんはまちづくりを実際に進めているキーパーソンでおられますが、どのような経緯で……。

田島：そうですね、裏通りになるんですが、通称「スタジオ通り」を対象に。

広報：どうして「スタジオ通り」というんですか。



堀内 勝さん
(金沢市町並み対策課)



竹田恵子さん
(金沢大学工学部)



安江雪菜さん
(構計画情報研究所)



田島乗彦さん
(鶴田島)

田島：ある人がアメリカでみた「スタジオ通り」とここがよく似ているということから、「考える会」ができて、「演出の街」ということで一つのステージと考えて「スタジオ通り」でいいじゃないかとなりました。その「考える会」ができたのが一昨年ですが、昨年アンケートをとったりして、今年2月に基本コンセプトができました。そこに市のモデル商店街活性化事業が入ったので、5月から「イベント」と「空き店舗に入った場合に内装費を補助する」という2本立てでスタートしました。

安江：通りにはおしゃれなお店なんかもありますよね。
田島：しかし、裏通りというイメージがどうしてもあるんですよ。

安江：新しく出来る駅通り線で、駅前からの視野が直線的に通ります。すると武蔵まで歩く人がかなり出てくるんじゃないか。ここは歩ける道筋整備で裏通りを積極的に使い、表も立派だけれども裏も探検的な面白さが期待できるのではないのでしょうか。

広報：田島さんはソフトの面でも大変ご苦労なさっておられると思うんですが……。

田島：定義も分からないままフリーマーケットをやろうということで、メインイベントとしてドイツのマイスターにちなんだ「マイスターマーケット」をやろうということになりました。5月はオリジナルのケーキ祭り、6月はアウトドアのキャンプの指導、7月は手作りのかき氷と地ビール、8月はかぶと虫とかくわがたを総動員で徹夜で採りにいきました。とにかく「市民

の方々に本物に触れてもらおう」ということで、毎月手配が大変でした。いろいろ見学もした結果、やはり客が欲しがらるバラエティに富んだものとか、テーブルクロスぐらいは統一的にとか気を使いました。動員数たかだか1500人くらいですが……。

広報：歩行者天国ではないんですか。

田島：そうです。交通部隊を仕立てて常時整理します。何も分からない状態の中で何とか……。

安江：「やめてしまおう」っていうんじゃないかって、「やろうやろう」って感じですけど。

田島：やっていくうちにそうなったんで、はじめは重荷のような仕事ばかりで、そんな中で、やっているうちに楽しくて、けっこう近所づきあいができるようになりました。

歩けるまちづくり

広報：ところで竹田さん、道筋整備事業の安心して歩ける交通体系というのは、活性化にかなり力をもっているんじゃないでしょうか。

竹田：車の交通量の減った「みち」では歩行者も自転車も増えています。車の量が減った「みち」では、たとえ車が通っても自由に歩くとか真ん中を歩くとかが増えています。武蔵の地下駐車場も必要だといわれる反面、あまり良いとは思えません。駐車場は必要悪で、



歴史が香る「ちよつ」といい町、 こまちなみを守り、育てる



金沢市

それにどう対応していくかが問題ですね。

田島：武蔵から香林坊あたりは、やはり歩けるまちづくりをしなければいけませんね。

竹田：若い頃は歩くのが好きでしたけど。

広報：子供3人連れて買い物すると、もう車がないと動きがとれません。

安江：北欧へいった時、みんな子供をバギーに乗せて何人も歩いていて、「たくましいな」と思いました。

広報：武蔵界限は、スタジオ通り、近江町市場、横安江町のアーケード街とか、それぞれ個性ある裏通りがあって、私は結構面白いと思いますが、ネットワークとしてつながっていないので、こうした面を行政で誘導することが大切ではないでしょうか。

堀内：実は歩ける道筋整備事業でそのルートも挙げているのですが、行政はアピールが下手で、皆さんもおそらくご存じなかったでしょう。市民の皆さんにアピールするところがもっと大切だと思います。

まちづくりの主体

堀内：最初にお話した「こまちなみ保存」地区のことですが、町家の新町に協議会ができました。居住者の自発性によるものです。そして、武家屋敷の里見町にも協議会が発足するんです。それはワークショップのようなものではなくて、「自分史」というか「歴史の根を調べてみようかな」と考えておられます。

広報：自分史というのはどうして出てきたんですか。

堀内：自分たちの住んでいるところに愛着があって、さらに、調べることによって「こんな謂れのあるところに住んでいたんだなあ」と、アイデンティティにもつ

ながる話だと思います。

広報：金沢らしさっていうのか、住んでおられる方々に愛着があるんですね。都会にはないような。ところで、武蔵の歴史って何ですか。

田島：青物市場や旅館があって、とにかく活気がありましたね。

堀内：昔は中心地だったんですよ。香林坊と武蔵ヶ辻とって二大繁華街で、二つの内のひとつのデパート、丸越デパートがありましてね。よそ行きの洋服着て、というところなんですよ。

広報：他に県内に面白い事例はありませんか。

安江：能登の七尾。元々やっぱり商店街は全然ダメだったんですよ。そこにJICが中心になって「変えていこう」と。まずは勉強会から始まり、目標を少しずつ設定して「できたね」なんて。折しも運輸省のポータルネットワーク事業でフィッシャーマンズワープを入れ込んだんです。その前に「国際テント村」というイベントをやっていました。するとだんだん「行けるんじゃないか」なんて。ここをみますと、会社に迷惑かけながら、そのうちに独立してどっぶりつかったコンサルタントが居られます。「町医者構想」っていうのも考えますよね。一地区一人のコンサルタント……。

堀内：「こまちなみ」も、「古い土塀を復元しましょう」というのは分かりやすいですが、新しく建て替えようとする時に「何人でお住まいですか」「車はどうしますか」、これは行政にはなじみません。

広報：どういう組織でやっていけばいいんでしょう。

安江：住民側が市民教育活動法人とかひっかけて非営利の組織をつくってしまって、行政からお金をもらいながら、「町医者一人雇ってみようぜ」とか……。

堀内：その方がうまくいくでしょうね。行政が組織つくってもうまくいかないと思います。

竹田：イベントも重要だけど、住民それぞれが自分の町に注目するような、新聞の広報に町々の謂れを紹介するとか、そういったアピールを是非期待したい。

堀内：放送局のニュースでやったぐらいではダメで、アピールするにはステージ性とかドラマ性が必要だと思いますが、そういうやり方は行政は下手なんです。

田島：今年一番勉強したのは「自分たちで楽しくやれるイベントにしよう」ということでした。

安江：今一番気になっているのは、大きな変わり目を迎えて、中心地の小学校や、県庁跡地とか、金沢城跡の再利用計画を、大勢の人の意見を取り入れて進めるべきだと思います。

広報：今日は大変有意義な話し合いをありがとうございました。

(1995年10月6日収録)

新潟支所だより

行政と輸入（モデル）住宅

新津市では今年度、国の“住宅建設コスト低減対策推進事業”の補助金をいただき輸入（モデル）住宅を2棟建設します。

新潟市のベッドタウン的要素や近隣市町村へのアクセスがしやすい新津市では近年、宅地開発や新興住宅地の拡大がされています。当市の持ち家率は約85%と新潟県の平均値より6~7%高く、持ち家志向の高い街と考えています。

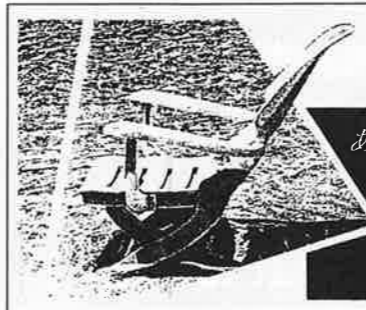
新しく住宅を求める人にとって新津の土地代は比較的高く、坪当たり25~30万円程です。我が家を求めようとする3500~4000万円も必要になります。

そこで、新しく住宅を求めようとする比較的若い世代の人々に、最近話題となっている輸入住宅（日本の住宅より2割程度安くできるという）を提案し、自分の目で見ていただき、自分の好みとライフスタイルをオーバーラップして比較検討してもらいたいと考えています。

先般、この動きが地方紙の経済面に掲載されたところですが、他の報道機関、金融機関、電力会社、不動産会社等から「どうして市が、行政が輸入住宅を建設するのか？」という問い合わせがあり、前述したような理由をお話ししました。これ程の反響があるとは思わず、私自身とんでもないことに携わってしまったのかと疑心暗鬼に陥りそうです。

しかし、私を含めた若い世代の夢実現のために頑張ろうと思っているこの頃です。

—新津市役所 都市計画課・横山 勉



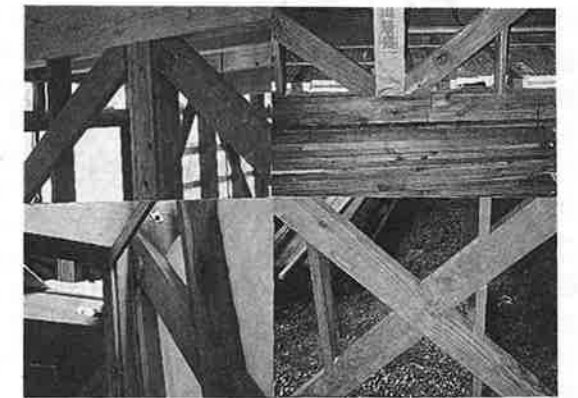
あなたはこの一つの[椅子]について、どれだけの想いを語れますか？

Dep. of Architecture and Civil engineering

FUKUI UNIVERSITY

富山支所だより

在来木造に筋かいはやめましょう



地震動による慣性力は、交互に左右から作用するから、筋かいは引張られた次の瞬間には圧縮され、また次は引張られるというふうに引張と圧縮を交互にくり返し受けるのであろう。

筋かいの問題を挙げると次のようである。

① 圧縮と引張では性能が違い、引張筋かいは剛性・強度は低い。平面プランの制約上、現実的に釣合い良く配置することが困難である場合が多い。

② 筋かい端部の接合が難しく、そのため筋かいが有効に働かない。上手に施工しても、接合部に隙間が生じ、初期剛性が不安定になる。筋かい端部を補強すれば、ある程度改善出来るが、完全には出来ないのである。

③ 筋かいに過度の力が加わると、土台の引き裂きや圧壊が生じ、また筋かいの面外に座屈して好ましくない。以上のような問題は、合板を張った耐力壁では生じない。ここに述べたことは、所定の性能を得るためには、合板耐力壁の方が施工が容易だということであって、筋かいの性能が劣っているということではない。筋かいの場合は、配置や接合についての考慮をしっかりと行う必要があるということである。

兵庫県南部地震以来既に11カ月が経ち、多くの専門家により被害原因は語り尽くされた感がある。にもかかわらず不適切な筋かいは今日も造り続けられている現実を視るに、筋かいは廃止した方が良いと思うのである。

—坂井建築事務所・坂井修一

気持ちのいい風景

金沢に来て4年が過ぎました。東京にいたころは無事故無違反の立派なペーパードライバーでしたが、こちらに来てからは週末毎に家族とドライブを楽しむことが多くなりました。有名な観光地はそれなりに良いのですが、少し不満もあります。まず人が多いこと。そして、その観光客目当ての店がまるで商店街の如く軒を連ねる。場違いなBGMを垂れ流す。何とも悲しくなる。風情も自然美も台無しにするようなことを平気で……。

最近はそのような悲しい場所はボイコットして、あまり有名ではないが味のある場所を探しています。近所の裏山の採石跡の洞くつだって少し怖くて面白い。住宅地図にもカーナビのCD-ROMにも道の描かれていない所を通って行かねばなりません。

そういうわけで、先日は地図をにらんであまり人が行ったというのを聞かない、那谷寺奥の院とも言われている所を訪ねてみようと思立ちました。加賀産業道路から福井方向に向かってしばらく走り、静かな山裾の街をぬけ、鄙(ひな)びた温泉の脇を通り、さらに山に入ったところでようやく見つけました。歩いて参道を登るのですが、結構きつい傾斜です。見上げると本堂が崖の下にへばりつくように建てられているのが目に入ります。人形峠の投げ込み堂に似ていると思いました。本堂のさらに上に登ったところが奥の院で、少し見晴らしが良くなっています。紅葉にはまだ少し早かったですが、思ったよりも気持ちのいい風景に出会えました。

—金沢工業大学・土田義郎



How about towers ?

(金沢工業大学大学院生・山口元子)

パリの広場



先日、フランスのパリへ旅行に行きました。大きい建物が多い割に、それほど圧迫感を感じないのは所々に存在する広場のせいでしょうか。

パリに点在する広場の内の一つ、コンコルド広場は、フランスの様々な姿を一度に見ることができます。

まず広場の中心部には、エジプトから運ばれたオペリスクが立っています。そのオペリスクの傍に立つと、東にカルーゼルの凱旋門、西にエトワールの凱旋門を見ることができます。(ちなみにオペリスクと両凱旋門は一直線上に位置しています)

また北にはマドレーヌ寺院、南にはセーヌ川を挟んでブルボン宮(現在は国民議会)が見られます。またこの広場は、王妃マリー・アントワネットが処刑された場所でもあります。

この広場に立つだけで、パリの街の設計がいかに芸術的かが感じられます。この広場に限らず、パリではどの方角から見ても、景観がとても素晴らしいのです。有名なシャンゼリゼ通りでは、店の看板の色が白色に限定さえされています。

「機会があれば、是非もう一度行きたい」私にとって、パリはそう思わせる街です。

—前田建設工業㈱福井支店・田中美保

木の感触

東京から信州に越してきて4年目を迎え、つくづく長野県は北・中・南・東の地域にそれぞれ独立しているような気がしています。例えば、信州大学も4つの地域に分散しており、長野に工学部と教育学部、上田に繊維学部、松本に本部その他、そして当農学部は南信の伊那谷北部の南箕輪村にあります。

農学部には建築ではちょっと異質に思われる方もおられるかもしれませんが、森林科学科の木材利用学研究室では木質構造、例えば、在来軸組構造のクリーブ試験や集成材・LVLの強度等の研究を行っています。また森林科学科の学生は必要な科目を履修すると、現在のところ木造建築士の受験資格が得られるようになっています。森林科学科は、植生、治山、水文、経済、造園、土木、施業、緑化などの分野から構成されており、これらとともに、森林の主要な産物である木材を賢く利用するということから、木材の性質についての研究と教育を行っています。

木材は古くから人類の身近な材料として慣れ親しまれてきており、また、年間何十万户という木造住宅が建築されたり、紙などの製品で見かけているにも関わらず、実際に触れる機会の少ないことを痛感しています。



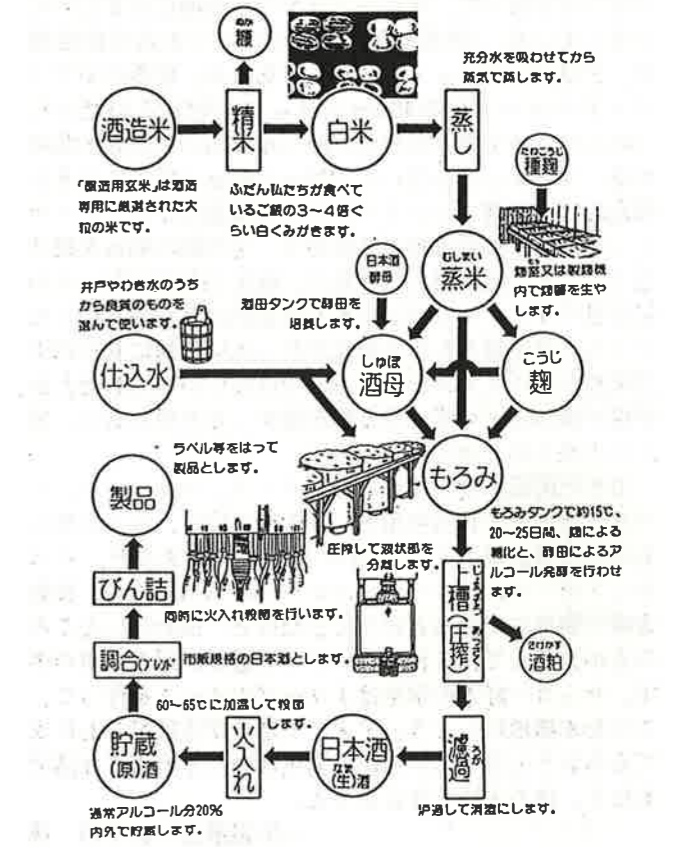
1年生対象にヒノキ材を使って火をおこすところを見せたり、2年生対象に様々な木材の種類の識別、チェーンソーを用いた丸太の加工や南木曽風のろくろ細工など実習におりまぜて、学生とともに木の感触を楽しむ時間を作っています。

—信州大学農学部
・武田孝志

シリーズ北陸の酒～酒造りのお勉強～

今年のお正月も、やっぱり寝正月になってしまった、と反省している人も多いのではないのでしょうか。北陸の酒シリーズも6回目となり、あっちの酒は旨いぞ、こっちの酒はたまらんぞと、きき酒を楽しむ人も増えてきたと聞きます。そこで今回は酒造りの基本を勉強しようと思ひ、仕込み真っ最中の、富山県朝日町の林酒造所を訪ねてみました。お酒の作り方を教えてほしいとお願いすると、「まずこれで」と下の図を見せて下さいました。酒米は飯米より大粒であること、酵母と麴の働きが違うこと等、ここまで勉強に来た甲斐がありました。

日本酒党のあなた、日頃どんな呑み方をしていますか?日本酒の肴なら刺身に決まってるじゃないか。ノンノン。日本酒だって色々あります。純米酒ならそれでもいいのですが、吟醸酒なら食前酒か食後に頂く方が香りも味も楽しめるということです。また、洋酒に〇年物と言うのがありますが、日本酒にも古酒というのがあります。蔵の奥から出てきたのは大吟醸黒部峡の三年物で、平成4年の全国新酒鑑評会で金賞を受賞したものだそうです。家に帰って早速きき酒会です。グラスに注ぐとと



建築に関わる方々へ	建築するとき	敷地	見えないランドスケープ
		哲学	愛
準備するもの		シゼンに対する作法	
N大学で建築を学ぶ者より			

(新潟大学学生・内田雅章、大橋 渉、小林百合子)